

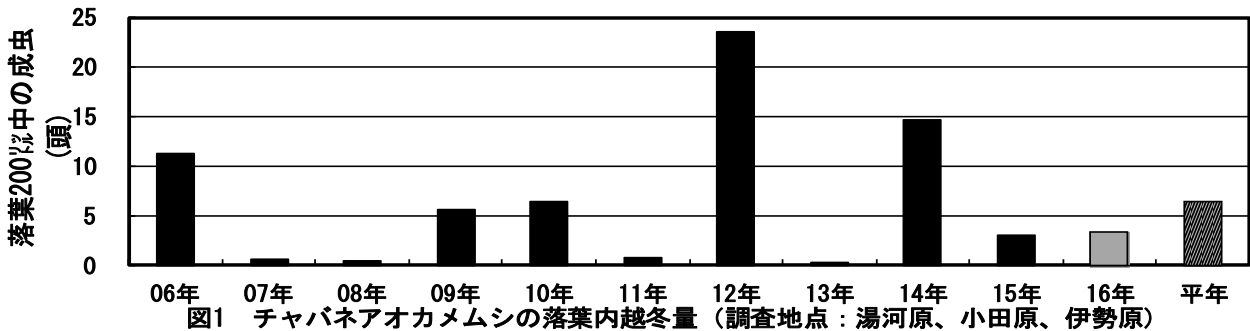
防除情報(病虫害情報 号外 第1号)

平成28年4月1日

果樹加害性カメムシ類による被害予想

7月まではやや少ない、8月以降は追加情報に注意！！

- 主なカメムシは成虫で越冬します。春から夏にかけて果樹を加害するのは、前年からの越冬成虫です。
- 越冬成虫の数は増減を繰り返す傾向がありますが、今年のチャバネアオカメムシの越冬成虫は平年よりやや少なく、前年並となっています(図1)。これは、昨年のヒノキの球果量がやや少なかったためと見られます。
- 今年の7月までのウメ・キウイフルーツ・ナシなどの被害は、やや少ないと予想されます。(図2)



防除のポイント

☆越冬成虫が少ない場合、7月までの防除は他の害虫との同時防除で対応できます。また、被害があっても摘果で対応できます。

☆果樹園への加害が少ない時は、天敵類を保護するため合成ピレスロイド剤や有機リン剤の使用はひかえましょう。

☆カメムシは園外から飛んで来るため、物理的な防除法(防虫ネットの設置、袋掛け、忌避灯の早期点灯など)と組み合わせた防除対策を行いましょう。

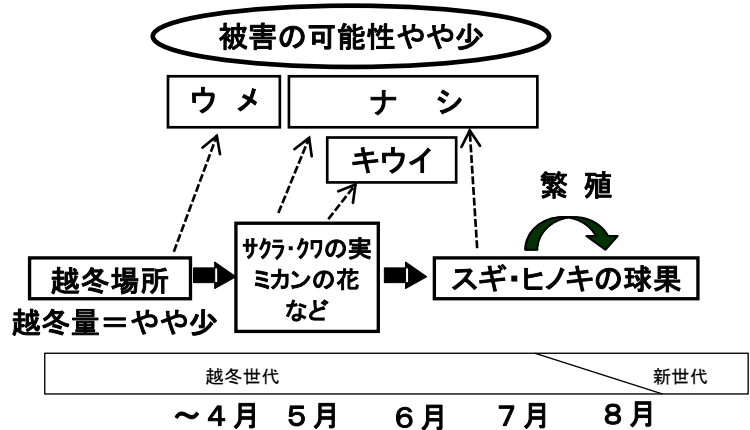


図2 2016年の果樹加害性カメムシの発生予想

8月以降は餌の状況次第

- ・ 果樹加害性カメムシは、ヒノキ・スギの球果を餌として繁殖し、夏に新世代の成虫へ世代交代します。(図2)
- ・ 8月以降の果樹園への飛来量や時期は、ヒノキ・スギの球果の量や劣化程度に影響されます。
- ・ 神奈川県自然環境保全センターの着花量調査から、今年の球果量は、ヒノキが昨年より多くスギは例年よりやや多いと予想されますが、8月以降の被害については最新の予察情報を参考にしてください。

病虫害防除部 TEL 0463 - 58 - 0333

インターネット <http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f450002/>

○ 農業使用の際は、必ずラベルの記載事項を確認し、使用基準を遵守するとともに飛散防止に努めましょう。